



用語解説

用語解説

【ア行】

※1 アセットマネジメント

中長期的な視点に立ち、保有する施設をライフサイクル全体にわたり効果的・効率的に管理運営し、持続可能な事業を実現するための活動のこと。本局では、平成27年度に「水道アセットマネジメント」「下水道ストックマネジメント」の基本方針を策定し、平成29年度から本格運用を開始している。

※2 雨水幹線

「※19 公共下水道雨水幹線」参照

※3 雨水貯留・浸透施設（雨水貯留施設）

雨水を一時的に貯めたり、地下に浸透させたりすることで、下水道や河川などへの雨水流出量を軽減するための施設

- ・ 公共施設雨水貯留施設：公共施設に設置する雨水貯留施設
- ・ 宅地内雨水貯留・浸透施設：一般家庭に設置する雨水貯留タンクや浸透ますなど

※4 おいしい水の要件

旧厚生省の「おいしい水研究会」が昭和62年にまとめた、水のおいしさを表す目安。適度のミネラル分等を含んでいる、水温は10～20℃程度など、水質検査の7項目の要件を満たした水が美味しい水とされている。

- ・ 水質検査7項目：硬度，水温，残留塩素，臭気度，蒸発残留物，遊離炭酸，過マンガン酸カリウム消費量

※5 応急給水

災害などにより水道水の供給に支障が出た場合に、緊急的に行う給水活動のこと。

【カ行】

※6 管渠 [かんきょ]

家庭や工場などから集めた下水を処理場まで運ぶ管のこと。

- ※7 環境マネジメントシステム
企業や自治体などの組織が、その運営や経営のなかで自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくこと。本市ではISO14001に基づく「宇都宮市環境マネジメントシステム」を構築している。
- ※8 ①幹線管路
ポンプ場や処理場に直結する大きな管路
- ※8 ②重要な幹線管路
基幹施設である川田水再生センターに直結する幹線管路のうち、中心市街地の規模の大きい避難所や災害拠点病院等の汚水を受け入れる幹線管路
- ※9 基幹管路
導水管・送水管・配水本管（給水分岐がない管）の総称
- ※10 給水管
各建物の前にある配水管から、水道メーターを経て蛇口まで至る水道用の管
- ※11 給水区域
水道事業者が厚生労働大臣の認可を受け、一般の需要に応じて給水を行うこととした区域のこと。
- ※12 給水人口
給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口
- ※13 給水要望
未給水地域等で、新たな利用者（未接続者）から提出される配水管整備要望のこと。
- ※14 下水汚泥消化ガス
下水処理で生じる汚泥の量を減らすため、汚泥消化タンクで発酵処理をする過程で生じるガスのこと。成分の約6割が可燃性ガスのメタンであることから、燃料としての利用が可能である。

- ※15 下水道施設情報管理システム
下水道台帳の情報を電子データ化し，図面管理の一元化，情報の共有化及び業務の効率化を図るためのシステム
 - ※16 原水
浄水処理する前の水であり，河川水などの地表水と，井戸水などの地下水に大別される。
 - ※17 広域連携
水道事業における運営基盤強化を図る重要な施策の1つであり，事業統合や共同経営を図るほか，地域の実情に応じて管理の一体化や施設の共同化など様々な形態で連携すること。
 - ※18 公共下水道
市街地において，下水を排除，処理するための下水道
 - ※19 公共下水道雨水幹線
雨水のみを排除する管渠のうち，主要な管渠
 - ※20 工業団地排水処理（施設）
工業団地内の工場における汚水を，最終的に処理する専用施設のこと。
 - ※21 公共用水域
河川などの公共の水域や水路
 - ※22 合流式下水道
汚水と雨水を同じ管渠で排除する下水道のことで，本市においては中心市街地に多く用いられている方式
- 【サ行】
- ※23 再生可能エネルギー
一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり，資源が枯渇しないエネルギーのこと。太陽光や，太陽熱，水力，風力，バイオマス，地熱などのエネルギーがある。

- ※24 紫外線処理施設
主にクリプトスポリジウム等の対策を目的に、紫外線のもつ殺菌作用を利用して原水を消毒する施設
- ※25 重点排水区
「公共下水道雨水整備計画改定計画」において、浸水被害状況や被害要因を踏まえて、特に整備を要するものとして定めた地区のこと。平成 29 年度末現在 5 排水区が該当
- ※26 受水 [じゅすい]
水道事業者が、水道用水供給事業から浄水（水道用水）の供給を受けること。
- ※27 小規模貯水槽水道
容量 10 m³以下の受水槽を経由する水道
- ※28 上下水道BCP [Business Continuity Plan（業務継続計画）]
災害や事故など予期せぬ緊急事態発生時においても、最低限の事業の継続と早期復旧を行えるようにあらかじめ定める行動計画
- ※29 上下水道事業懇話会
上下水道事業における経営や事業計画などについて、広く意見を聴くため、学識経験者や各団体の代表者、公募による委員などで構成された懇話会のこと。
- ※30 浄水発生土
浄水場において、取水した原水から水道水を製造する過程で取り除かれた、河川中の濁り（土砂）などの沈殿物を集めて脱水処理したもの。
- ※31 処理区域
下水道の整備対象とする区域
- ※32 処理水量
下水管渠で集められ、水再生センターで処理した下水の量
- ※33 浸入水
下水管渠の老朽化や誤接続などが要因となり、汚水用の管渠に浸入する雨水や地下水

- ※34 水洗化人口
実際に公共下水道に接続して、汚水を下水道に流すようになった人口
- ※35 水道 GLP [Good Laboratory Practice (優良試験所規範)]
日本水道協会により、水道試験所が実施する分析や試験が適正に実施されたことを証明できる基準を定めたもの。その基準を満たした試験所が認定され、本市では平成 20 年 11 月に認証取得した。
- ※36 水道施設情報管理システム
水道台帳の情報を電子データ化し、図面管理の一元化、情報の共有化及び業務の効率化を図るためのシステムのこと。
- ※37 スマート管理
「※62 水のスマート化」参照
- ※38 生活排水汚泥
し尿や炊事・洗濯・入浴などの、生活に伴い排出される汚水を浄化槽等で処理する際に発生する汚泥
- ※39 制御所
制御弁により、配水区域の流量や水圧を適正に調整するための施設
- ※40 接続済人口
「※34 水洗化人口」参照
- ※41 送水管
浄水場から配水場まで水道水を送る管路
- ※42 ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS) [Social Networking Service]
個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービス

【夕行】

- ※43 耐震管（水道）
地震の際でも継ぎ目の接合部分が離脱しない構造となっている管のこと。

- ※44 耐震診断
既存施設が、想定規模の地震に対して安全であるか否かを判定するために行う調査、解析及び評価などの作業の総称
- ※45 耐震適合管
耐震管以外でも、管路が布設された地盤の性状を勘案して、耐震性があると評価できる管路
- ※46 地域下水処理（施設）
開発行為などにより住宅団地に設置され市に移管された、汚水を処理するための専用施設のこと。
- ※47 中継ポンプ場
マンホールポンプ場では汲み上げることが困難な量の下水を汲み上げるため、大きな水中ポンプや水槽などの設備が整備されている施設
- ※48 長寿命化
適正な維持管理を行うことにより従来の機能を維持し、目標とする耐用年数以上に延命化すること。
- ※49 直結給水
受水槽や高置水槽などの水槽に水道水を貯めずに、配水管の水圧や増圧施設を利用して蛇口に直接給水する方式のこと。
- ※50 導水管
取水施設から浄水場まで原水を送る管路
- ※51 特定環境保全公共下水道
市街化調整区域において、下水を排除するための下水道
- ※52 特定事業場
水質汚濁防止法及びダイオキシン類対策特別措置法において規定された特定施設（電気めっき施設や自動式車両洗浄施設など）から、公共下水道に汚水を排出する工場または事業場

【ナ行】

- ※53 農業集落排水（処理施設）
農業集落を対象とし，農業振興地域で市町村が設置した，汚水进行处理するための施設のこと。

【ハ行】

- ※54 ①配水管
配水場（配水池）から給水管まで水道水を送る管
- ※54 ②配水本管
配水管のうち，給水分岐のない口径大きな管
- ※55 配水区
浄水場や配水場から水を効果的に配水するために設定した区域
- ※56 配水量
浄水場や配水場から送りだされた水道水の水量
- ※57 布設替
古い管を撤去し新しい管に入れ替えること。
- ※58 放流水
水再生センターで処理し河川へ放流される水

【マ行】

- ※59 水運用
市内の各配水区間の効率的な水融通を図るため，配水量の調整を行うもの。
- ※60 水需要
お客様が必要とされる水道水の水量
- ※61 水処理施設
水再生センターで汚水をきれいにする施設のこと。

※62 水のスマート化
水道事業における既存の資産と様々な情報を活用して、事業の最適化、効率化を図ること。

※63 宮の水サポーター
アンケートにより上下水道事業に関するご意見をいただくほか、広報活動に協力をさせていただく市民

【ヤ行】

※64 有収水量
料金・使用料の徴収の対象となった水量のこと。

【ウ行】

※65 流域下水道
2つ以上の市町村の下水を集めて処理するための下水道。事業主体は原則として都道府県になる。

【A～Z】

※66 BOD値 [Biochemical Oxygen Demand (生物化学的酸素要求量)]
水中の有機物を分解するために微生物が消費した酸素の量などを指す。この数値が高いほど水質が汚濁している。

※67 ICT [Information and Communication Technology (情報通信技術)]
情報や通信に関する技術の総称で、IT と同義語

※68 IoT [Internet of Things (モノのインターネット)]
様々なものがインターネットに接続されて情報交換し、その大量の情報を分析することで、人により良い提案などを行い、生活を便利にする概念

※69 ISO9001
企業や団体がその顧客に提供する製品やサービスの品質を維持・向上させることを目的とした、品質マネジメントシステムの国際規格で、本市では平成 17 年 2 月に松田新田浄水場で認証取得した。

※70 PDCAサイクル

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。

Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。